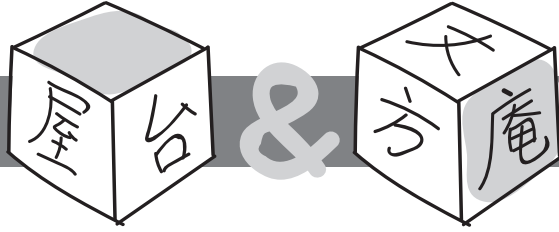


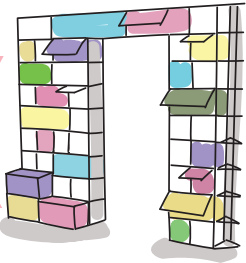
YA-TA-I



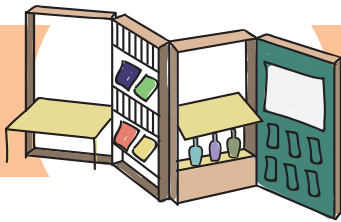
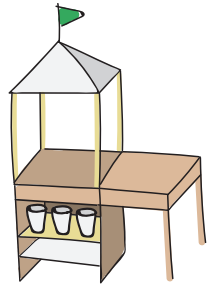
HO-JO-AN

# 平成30年度 建築&デザイン総合演習 神保町地域活性化 Project 報告書

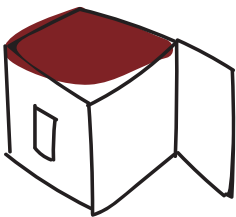
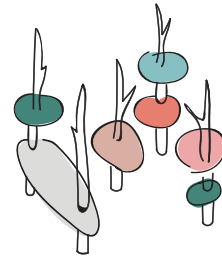
KYORITSU WOMAN UNIVERSITY ARCHITECTURE & DESIGN



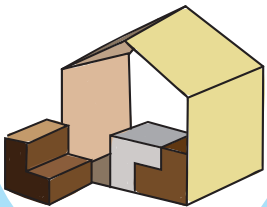
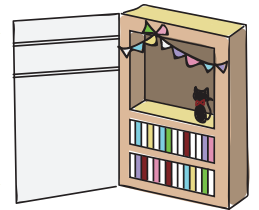
& 屋台: コーヒーで巡る神保町スタンプラリー  
方丈庵: 気持ちで見つける縁保町



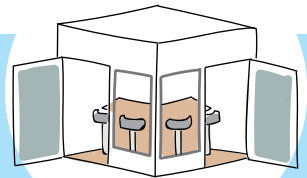
& 屋台: 古本屋は突然に  
方丈庵: 思い出の森



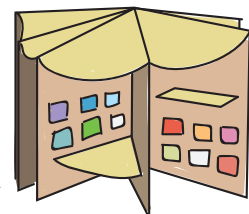
& 屋台: 吾輩は本である  
方丈庵: 吾輩は絵本である

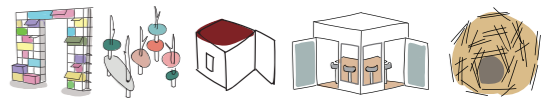


& 屋台: QKhouse  
方丈庵: 神保町珈琲物語～ここから～



& 屋台: 古本乃粹  
方丈庵: シネマネスト





# 家政学部 建築・デザイン学科 建築&デザイン総合演習 演習報告書

〈担当教員〉  
堀・高橋・福田  
〈助手〉  
藤田・花井

## 2018 ARCHITECTURE & DESIGN

### 建築&デザイン総合演習

#### ワークショップ型演習

共立女子大学建築・デザイン学科は、生活に必要な「空間」と「もの」そしてそこで行われる「こと」を対象としてそれらを総合的に捉え、学び、あるべき姿を提案できるように主に「空間」をつくる建築コースと「もの」をつくるデザインコースで構成されています。

「空間」と「もの」は単独では機能しないし成り立ちません。必要な「空間」があつてそこに必要な「もの」が入り、そこで人々が活動する「こと」が起り初めて生き活きとした場や街となります。その「空間」と「もの」そして「こと」を生活者の立場から具体的な生活の場や街、ひいては生活そのものを提案するのが建築・デザイン学科です。

各コースは身につけるスキル「知」と「ワザ」が異なるため、年次から別々のカリキュラムで演習(実技)を中心に授業が組まれています。しかし、二つのコースは生活に必要な活動の場を

創るという点で切っても切れない関係にあります。この二つのコースが遊離することなく有機的な関係を保つために、三年次に「建築&デザイン総合演習」という科目を設けています。

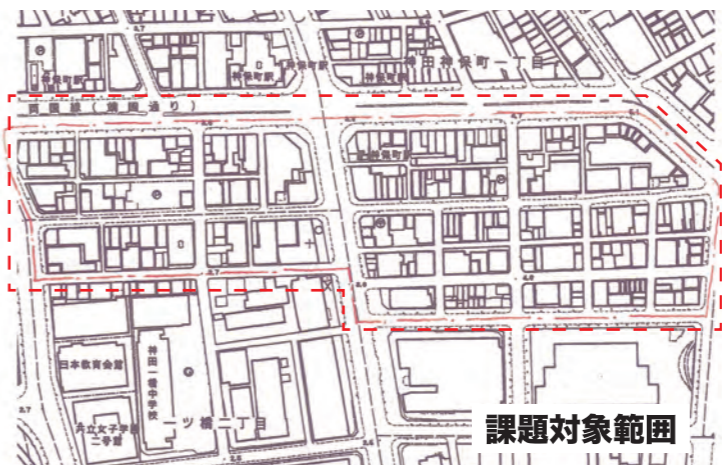
各コース各分野の垣根を越えて横断的に繋ぐチームを編成し、互いに競い合いながら作品を制作するのがこの演習です。共立女子大学は神保町という様々なポテンシャルを持つ街に位置しています。これからの大学は地域との連携が重要な課題の一つです。「空間」と「もの」は即ちちづくりを直結します。建築・デザイン学科はそれを実践できる学科であり、学生にとってもとても貴重な体験ができるシチュエーションにあります。その地の利を生かし、神保町のポテンシャルを継承しながら、これからの街を持続していくために「街を元気にする」というテーマで、各チームが街を調査、必要な空間・機能・ものを抽出して、具体的な空間とそこで使用する家具やサイン等をトータルに計画し提案することがこの演習の目標です。

2018年度の演習内容は次の通りです。

### 神保町の魅力を探り 街を元気にするプロジェクト

世界の中でも他に類のない程、多くの書店、古書店が軒を連ねた、書店や出版社が集積した街。お茶の水周辺の楽器店、靖国通り沿いのスポーツ用品店。明治大学、日本大学、法政大学、専修大学、共立女子大学などの教育施設。吉本花月ホールなどの文化情報発信基地。また、カレー・コーヒーマンなど食の街。このように神保町は文化、芸術、教育そして食文化が混在した活気ある街となっています。また神田古本祭り、神保町ブックフェスティバル、本の街神保町ずららんまつり、神田カレーグランプリ、神保町さくらみちフェスティバルなど様々なイベントが開催され、開催時はあふれんばかりの人が集まりとても活気があり、とてもポテンシャルの高い街です。店舗の多くを占める古書店は、個人経営が基本で代々地域の核として街の繁栄とコミュニケーションを担ってきました。個人として特色のある経営をすることで、それが神保町という特色のある街をつくり出しています。しかしながら、古書店にも高齢者の波が押し寄せています。その影響のためか、夜8時過ぎと休日はシャッターが閉じて活気のない街となります。最近では、空地ができるも虫食い状にナショナルチェーンの店ができ、特色のないどこにでもあるような繁華街となってきました。

特異な街が故に、神保町特有の資源があります。ひとつはブックシェルフです。道にはワゴンが置かれ壁面には本棚が設けられ本が建物のファサードをつくり出しています。ひとつは緑です。下町の雲気が残るこの街には、住む人



課題対象範囲

### 課題1 屋台

先に述べたように神保町の街の豊かな景観と活気をつくりだす要素に店頭で置かれるワゴン・ブックシェルフがあります。それを発展させ、神保町の将来の活気につながる新たなブランド・既存ブランドのさらなる発展につながり、イベント時には様々な場所に展開できる、屋台を企画して下さい。デザインをするにあたり、神保町の歴史、資源、現状を調査して下さい。企画した屋台に必要なロゴマーク、サイン、ポスター、スタッフ制服(Tシャツ)、家具や食器、などのプロモーションツールもデザインして下さい。大きさ材料は自由ですが、左記を守りました。セルビルドできること。できれば簡単に分解できること。

- ・店頭において通行の邪魔にならないこと。
- ・簡単に移動できること。

#### 【フェーズⅠ】9月29日

●調査・分析し企画を立案する。  
神保町の歴史、資源、現状を調査。業種、店舗形態、利用者の年齢や属性、街並み、ファサードなど、事例調査。屋色を十分行い分析する。資源、現状については、業種、店舗形態、利用者の年齢や属性、街並み、ファサード、など現状の分析より、この街を活性化しサステナビリティな街としていくために寄与する企画をグループで立案する。

#### 【フェーズⅡ】10月6日

●具体的にデザインする。  
ケース1:各グループでフェーズⅠの企画に沿って屋台・必要なアイテムを具体的にデザインする。  
ケース2:各グループでフェーズⅠの企画に沿って屋台・必要なアイテムを具体的にデザインし、発表後協議して一案に絞る。

#### 【フェーズⅢ】10月6日~10月21日

●具体的に製作し展示する。  
ケース1:計画に沿って屋台・必要なアイテムを製作し展示する。屋台はダンボールを材料に原寸で製作、またはS=100でリアルに作成する。  
ケース2:決定案に沿って屋台・必要なアイテムを原寸で製作する。屋台・必要なアイテムについてはグループを編成し製作する。

### 課題2

#### 方丈庵~小さな空間から神保町の未来をみる

鴨長明は四畳半(方丈)の小さな庵に起居し、方丈記として戦乱の世の中を見つえ、記録しました。鴨長明に倣い特徴がなくなりつつある神保町の新たな可能性を、フェーズⅠで考えたものを発展させた2.7m×2.73m×高さ2.73mの小さな空間から考えて下さい。小さな空間では「住む」「働く」「売る」「買う」「食べる」「つくる」などの行為が行われ、新たな活気を生み出します。ゲストハウスの二室、最小限のカフェ・ワインバー、神保町の食を集めた弁当屋、新刊書・珍しい児童書など特化した本を集めたブックショップ、珍しいお世界のお菓子を売るスイーツショップ、小さな家具屋などが考えられます。小さな空間のデザインをするにあたり、神保町の歴史、資源、現状を調査、事例調査を十分行い、それを踏まえて小さな空間(方丈庵)を計画して下さい。方丈庵の設置場所は空き地、建物内等自由に選定して下さい。必要なロゴマーク、家具や食器、サイン、ポスター、地図、スタッフ制服(Tシャツ)、家具や食器、などのプロモーションツールもデザインしました。

#### 【フェーズⅠ】

●小さな空間(方丈庵)の機能を考える。  
神保町を調査、分析し、将来の活性化にも繋がる小さな空間(方丈庵)の企画・プログラムを考えして下さい。業種、店舗形態、利用者の年齢や属性、街並み、ファサード、など現状の分析より、この街を活性化しサステナビリティな街としていくための企画・プログラムを各グループで立案する。

#### 【フェーズⅡ】

●設置する場所を選定する。  
空き地、建物内等対象エリア内で場所を選定する。

#### 【フェーズⅢ】

●具体的に計画する。  
企画・プログラムに沿って具体的に設計する。小さな空間(方丈庵)の活動に必要なロゴマーク、家具や食器、サイン、ポスター、地図スタッフ制服(Tシャツ)、家具や食器、などのプロモーションツールもデザインする。



Aグループ: 気持ちで見つける縁保町



Bグループ: 思い出の森



Cグループ: 吾輩は絵本である



Dグループ: 神保町珈琲物語 ~ここから~



Eグループ: シネマネスト

### 最終発表会

最終発表会は、建築・デザイン学科常勤全員で行う。神保町の街自体をテーマとした地域密着型プロジェクトであるため、地元の方の参加も予定している。今年度は2019年1月31日に数多くの地元の方にご参加いただき行った。詳しい内容は最終発表会の報告による。

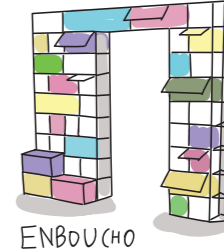
今回は次の5チームが提案を行いました。提案内容は次頁以降に記載します。

#### 課題1 屋台

- Aグループ: コーヒーで巡る神保町スタンプラリー
- Bグループ: 古本屋は突然に
- Cグループ: 吾輩は本である
- Dグループ: Okhouse
- Eグループ: 古本乃粹

#### 課題2 方丈庵

- Aグループ: 気持ちで見つける縁保町
- Bグループ: 思い出の森
- Cグループ: 吾輩は絵本である
- Dグループ: 神保町珈琲物語 ~ここから~
- Eグループ: シネマネスト



ENBOUCHO

**屋台** コーヒーで巡る神保町  
スタンプラリー

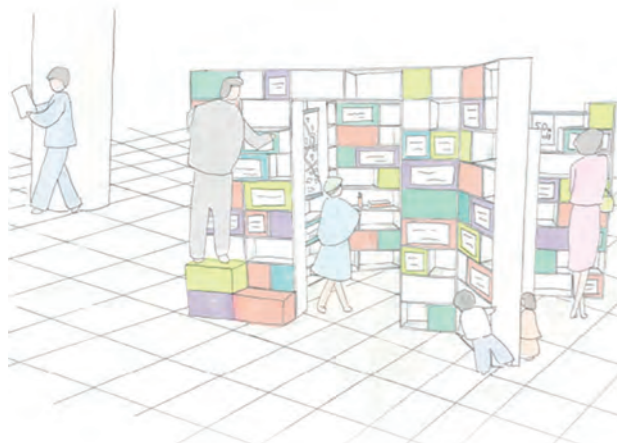
**方丈庵** 気持ちで見つける縁保町

2018 ARCHITECTURE & DESIGN

チームメンバー：小池有佳 内田梨華子 金子沙椰  
佐治ひとみ 鶴田真央 古橋朋弥 稲田夕香  
鈴木小百合 本田佳南子

## 屋台 コーヒーで巡る 神保町スタンプラリー

喫茶店で有名な神保町。沢山のサラリーマンやお年寄りが訪れる一方、子供や若者などの若年層が少ない街である。そんな街にスタンプラリー屋台を配置することで神保町の新たな風景を形成する、今までにない神保町の新たなコミュニケーションを提案。コーヒーを取り扱っている喫茶店にでがらしをいただく代わりに共立から屋台の貸し出しを行う。イベント時には屋台を連ねることにより神保町の新たな風景を生み出す。また小さな紙コップに入れたお店のコーヒーを一杯100円で販売していただき、収益金は全額、協力していただいた喫茶店の利益となるシステム。貸し出し屋台を行うことで地域の人と学生との交流をはかり、問題提示した地域と学生の関係の希薄化を解消することができるだろう。



イメージイラスト  
(作：鶴田)

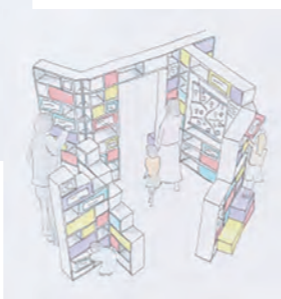
## 方丈庵 気持ちで見つける 縁保町

古本、カレー、コーヒーなどの有名店が多く立ち並ぶ神保町。訪れる人はお店の多さによって戸惑うことであろう。神保町の良さが伝わらない、魅力が分からない、そんなひとに開けてほしい、様々な引き出しを訪れた人の気持ちにあった引き出しを開けることで神保町との新たな出会い・発見が見つかる。神保町の魅力をさらに引き出す沢山の引き出しは皆に見守りつづられ、大事な存在へと変化していく。地域の人が作り出す、見て楽しい、開けて驚く、笑顔になれる引き出し。

—そんな神保町の新たな案内板を提案する



イメージイラスト  
(作：鶴田)



## 様々な引き出しを用いた今までにない 「神保町の新たな案内板」

神保町の問題である「神保町駅を利用する人の多さに対し遊びに来る人の少なさ」を取り上げ、「経田駅ではない訪れたいくなる神保町」を考案。  
多世代の交流の場、情報交換の場として使用してもらおうことを目的にこの場から自己コミュニケーションを形成してほしいという願いを込めた。訪れた人の気持ちにあった引き出しを開けることでお店を知り、魅力を知り、神保町を知ること。開く行為は自らの自己啓発を促し自分だけのお気に入りを見つげられる。また引き出しを通して「観光客」と「街の人」を繋げる役割を持ち、街の新たな出会いが案内板によって広がっていく。

## 神保町の街を巡って、 神保町を知る。

スタンプラリーは、対象となる屋台でドリンクを購入することに、一つのスタンプが押される。スタンプを制覇すると、引換所にてでがらしを利用した、コーヒー染めのノベルティがプレゼントされる。



design  
model



ショップカード  
(作：鈴木)



シール  
(作：鈴木・本田)

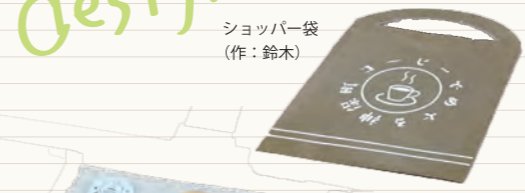


ロゴマーク  
(作：稲田・鈴木)



模型 1/10  
(作：佐治、内田、金子、古橋、鶴田、小池)

design



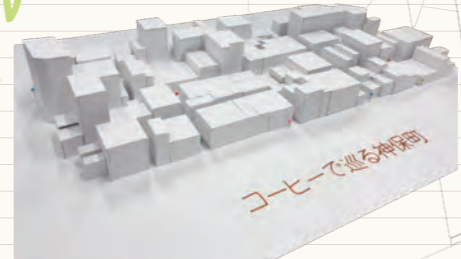
ショッパー袋  
(作：鈴木)

くろみボタン  
(作：稲田)



コーヒー染め  
ブックカバー、葉セット  
(作：本田)

model



模型 1/5  
(作：佐治、内田、金子、古橋、鶴田、小池)



ロゴマーク  
(作：稲田)



屋台 古本屋は突然に

方丈庵 思い出の森

2018 ARCHITECTURE & DESIGN



Omoide no Mori  
×  
Furuhonya is suddenly

- MEMBER
- 石塚せな
  - 岡しずり
  - 岡村佳奈
  - 黒川めり
  - 澤内
  - 長島未来
  - 高梨香恵
  - 丸尾優果
  - 宮本佑香

方丈庵 思い出の森

目的

神保町は本の街と呼ばれているが、近年本離れが進み、新書や古本を読む機会が少なくなっている。本の物々交換ができる方丈庵を作り、人々が本に対する思い出を共感できる場所とする。本に親しむきっかけを作ること

場所

半蔵門線 神保町駅の敷地。より多くの人に利用してもらうために、通行人の多い駅ナカに設置。

本の交換

自分のお気に入りの一冊を交換することで、ただ本を交換するだけでなく「思い出」として交換する。ここに置かれる本には、置いた人が書いた葉か帯がついている。その葉などにはただ本の感想だけでなく、本の市場調査の役割を持っている。収集した情報は神保町内の書店や古本屋で共有し、活性化を狙う。

- ①自分の思い出のある本を持っていく。
- ②思い出をしたためる。



お勧めのポイントを書く。

本のタイトル

面白かった

感想深い

ぜひおすすめ

言葉にできる

また読みたい

comment

持ち出し日

本のタイトル

持ち込み日

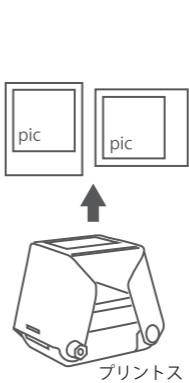
本のタイトル

③自分の本と引き換えに、別のお気に入りの一冊を持ち帰る。

写真の共有

神保町という町での思い出を写真として共有することで、街歩きを誘い新しい発見につながる。神保町のお店にプリントスという画像データをプリントできる機械を設置してもらい、お店に行くきっかけも作る。

- ①神保町での思い出の一枚をスマホで撮る。
- ②街中にあるプリントスで印刷する。



③思い出の森で共有する。



方丈庵について

森をイメージして制作。四隅と真ん中にある五本の柱を軸に、葉っぱのような本棚が構成され、森で冒険するようなワクワク感を演出している。そのほかにも、見つけた本をその場で読める椅子や葉や帯のコメントなどを書ける机、写真を吊るすスペースに分かれています。一本の柱につき、四〜五つの棚が付いており、一番上の棚は二本の柱をつなげ建物の構造を支えるものである。建物自体の幅の調節も可能で、設置スペースの広さに合わせて、三方向から出入りすることが出来るようになって



ロゴマークについて

方丈案の建物を上から見た形をモチーフに制作。思い出の集まる場所という事で、カラフルな色遣いをした。棚の形や重なりも含めて印象的なマークになった。文字にも棚のリズム感と、思い出(気持ち)の動きを関連付けるように大きさに違いをつけた。森の字が本を重ねて作られているところが、方丈庵のシステムに似ているところもポイントになっている。



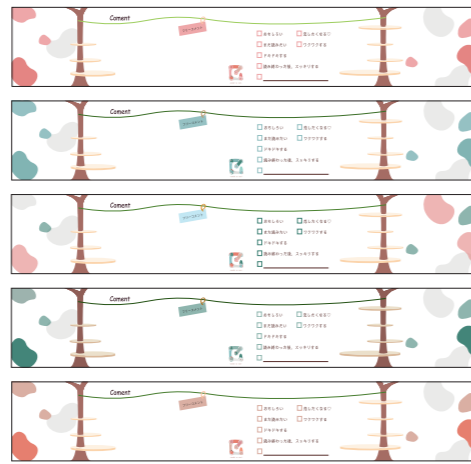
- omoide no mori -



- omoide no mori -

葉・帯について

文庫本や新書、絵本までサイズが様々な本であっても対応できるように葉と帯の二パターンで制作。帯は本に巻きつけ、書かれたコメントが並んでいる時でも見える。左右にある木が折り目の目印になっている。左右にある木が折り目の目印になっている。葉は本の表紙やページの角にひっかけられる形で、本を開いたときにコメントが見えるため、探し手が本を開いたときの楽しみになる。本に



対しての気持ちを色でも表せるように葉・帯ともにロゴの色味を使って、選べるようになっていいる。使用者の気分に合わせて、チェック項目とフリースペースが作られている。

屋台 古本屋は突然に

目的

神保町は、昔ながらの喫茶店や古本屋が連なる昭和レトロな街である。そんな奥深い魅力のある町を多くの人に親しんでもらうために古本屋に焦点を当て、街を楽しむ・つながりを持つための移動式屋台を提案する。

場所

より深くに触れてもらえるよう路地裏を拠点に神保町内之様々な場所に出店。神出鬼没な屋台に行きつくまでの道のりも楽しむことが出来る。

屋台

屋はカフェで夜はバーとなる。路地裏という狭い空間での設置を可能にするためにカウンターや椅子など、すべてが折りたたみ式の屋台となっている。

謎解きイベント

毎月第三土曜日に街歩きを誘うイベントを実施。学生や会社員だけでなく、観光客もターゲットに神保町の新しい魅力に気付くきっかけを作る。



屋台 吾輩は本である

方丈庵 吾輩は絵本である

2018 ARCHITECTURE & DESIGN

チームメンバー

- 勝島智代 平井花輝
- 天野有紗 梅谷花菜
- 川村あすか 佐藤千華
- 土屋宥乃 伏間江紗希 守屋清乃

はじめに

デジタル化が進み活字に触れる機会が減っている。携帯で手軽にデジタル本や雑誌・マンガを読めるようになった。さらに印刷技術が向上したことで、文庫本ではなく写真やイラストの多い雑誌などのほうが手に取られている。一方で、紙ベースである活字本や参考書は手に取られる機会が少なくなってきた。また、現代人の47.5%の人は一冊も本を読まないと文化庁の調査でわかっている。歴史ある神

方丈庵

コンセプト

本をより身近に感じてもらうためには本の前段階である絵本が最適ではないかと考え提案をした。本提案では、本の前段階である絵本を使用し、本に抵抗感なく触れ合う機会を設け、本の魅力を発信する。

提案内容

- ①絵本を読んでもらい、最後の1ページと表紙を作成（折り紙、クレヨン、リボン等）
- ②絵本作家とコラボした「吾輩は猫である」のオリジナル絵本を販売



3ヶ月に一度、大人の部・子供の部にわけ、絵本作成の大会を行い選ばれた人は新人作家とコラボし、絵本を販売できる権利を得られる。

保町の古本屋も例外ではなく、戦後もなくから現代に比べると利用者が減少傾向にある。そこで私たちC班は、日本の有名な小説「吾輩は猫である」をもとに本の街・神保町の豊かな景観と活気を作り出す屋台と方丈庵を企画した。それぞれの企画を紹介する。

屋台

コンセプト

現在古本を回収するシステムは数多くある中、自分の不要になった本を売買するだけになりつつある。このシステムは、自分の不要になった本を次の人に託し、古本としての活用以外に不要となった本を新しい形としての提供や、街とのつながりを生む。

提案内容

この屋台の仕組みとしては、いらなくなった本を設置された古本回収ボックスに入れ、専用の携帯アプリを入れておくこと一冊につき1ポイント貯まる制度である。15ポイント貯まると近くの古本屋やカフェで使用できる商品券がもらえる。

回収された本はその日中に有志の学生がジャンルごとに仕分けを行う。参加した学生も一日参加する毎に神保町で使用できる券がもら

○絵本の種類

- ・新人作家のコラボ作品
- ・吾輩は猫であるのオリジナル作品
- ・大会入選者の作品
- ・神保町の書店の方おすすめ作品

○開催日

第二・第四土曜日※普段は絵本販売のみ

○開催地

神保町「SUIT SELECT」前



設計プロセス

この設計をするにあたり、焦点をあてる絵本に注目がいくように外壁をなるべくシンプルにし外壁を白にした。中にたくさんの絵本を置けるように本棚を三面壁一面に設けた。また、敷地を神保町のメイン通りとなる靖国通りの角地にある「SUIT SELECT」の前に設置し、たくさんの方の目に留まることで多方面から人がアクセスしやすいような場所にした。

える。

本の中で使用できるものは古本、痛みが激しいものは雑貨としてリメイクする。回収した本は量が増えたら加盟する本屋に還元される。（約3ヶ月に1回）

運営方法

屋台でワークショップを開催し、学生が古本から作った雑貨を販売する。参加した有志の学生には神保町で使用できる商品券を支給。

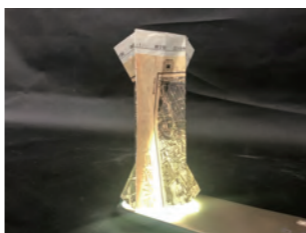
○開催日

- 毎月第2・第4土曜日
- 午前10時〜午後17時

○設置場所

屋台・共立女子大学構内

回収ボックスは加盟された古本屋前に設置。（毎月場所変更あり）



ロゴデザイン

神保町のイメージを元にレトロなデザインにした。昔の日本の雑誌のような、反対から読む形とし、中央の絵本は見る人が遠くからでもわかるように、左から読める形にした。深い赤色は古き良き街並みの神保町のイメージと合わせている。



設計プロセス

屋台は本を開いたような形にすることでインスタ映えを意識。また本好きが集えるようにコルクボードを一面に配置し、自分の好きな本のおすすめ文を書くスペースを確保。さらに屋台前にワークショップスペースを配置することでリメイクも楽しめる。移動時は折りたたみ可能。



活動を通して

これらの活動から得られる効果としては、絵や文に自分の考えを落とし込むことで、自分の内側にあるイマジネーションや考えをアウトプットすることで自分の考えを見つめなおす機会になるのではないかと考えた。そして、同じ絵本でも自分でつくったものと他者によってつくられた作品の違いを視覚的に見ることそれぞれの意見や考えの違いを感じる経験にもなる。

まとめ

この活動を通して年々増加する活字離れを絵本という媒体で行いながら本を身近に感じてもらいたいと思っています。さらに、文化省では国民自身も読書量が減少しているとかんじている一方で、本を読んだ人は一年間の蔵書量が増加しているのも事実であります。だからこそ、絵本をきっかけに本を手に取り読書をまたはじめてほしいと思っています。子供から大人、地域の方、さらに訪れた人（外国人の方）などの交流も生まれるのではないかと感じております。歴史ある神保町の街であるからこそ訪れる外国人の方に、絵本を通して日本の文化を学びきっかけになってほしいです。

屋台 Q K house  
 方丈庵 神保町珈琲物語  
 ~ここから~

2018 ARCHITECTURE & DESIGN

- 【メンバー】
- 飯田真悠 佐々木美輝
  - 堂脇由香梨 松坂美沙
  - 寺田朱祐美 柴田こよみ
  - 岡村瞳
  - 吉原侑唯
  - 藤田美玖

屋台

働く人のための神保町を、神保町の歴史から考える。神保町の将来の発展と今をつなぐ喫茶店と神保町

QK HOUSE

quick & curry の頭文字から休憩ハウスと名付た、家型のベンチ空間である。この屋台のコンセプトは神保町の歴史からヒントを得ている。神保町近辺では明治時代に大学が多く創立され、それがきっかけで書店が増え、学生が多く訪れるようになり、安くてボリュームがあるカレーが流行した。スプーン一本で本を片手に読みながら食べるスタイルができた。

現在では、サラリーマンや〇〇が多く行き交うオフィス街である神保町だが、歩いてみると気軽に休憩する場所がない。ランチで外に出るとお店は行列ばかりやと中に入ってもなんとなくゆっくりできない。そんな忙しい神保町に歴史から紐解き、新しくも神保町らしい休憩スペースを提案した。

本を片手にちよつとよりませんか？  
 ~カレー香る出張休憩スペース~



椅子を階段状に組み合わせ 自分の好きな高さ、場所で休憩することができる。

自分の荷物や本を置くことができる。



方丈庵

神保町珈琲物語 ~ここから~

多くの喫茶店が並ぶ神保町だが、訪れた人たちはどの喫茶店に行けばいいのかわからない、なんとなく行きにくい店舗構成で敷居を高く感じるなどの問題点がある。そこで私たちは「神保町物語 ここから」を提案した。週替わりで神保町にある喫茶店が「ここから」を運営し、どこに行けばわからないという問題を解消し喫茶店と神保町を訪れた人の距離を縮めることが狙いである。

敷地は楽器街、スポーツ店街、古本街が交わる場所を選んだ。様々なジャンルの人に足を運んでもらいやすく、喫茶店の魅力を知ってもらおうと共に、その場でそれぞれの趣味の話を共有してもらおうことも可能である。そうすることで「ここから」喫茶店をコミュニティの場とし、神保町全体の情報が共有されることでさらに神保町の魅力が広がる。

また喫茶店と「ここから」だけでなく、喫茶店から喫茶店へつながる仕組みを考えることで一度で完結しないようにした。楽しみながら神保町物語のページに多くの人が足を踏み入れてほしい。

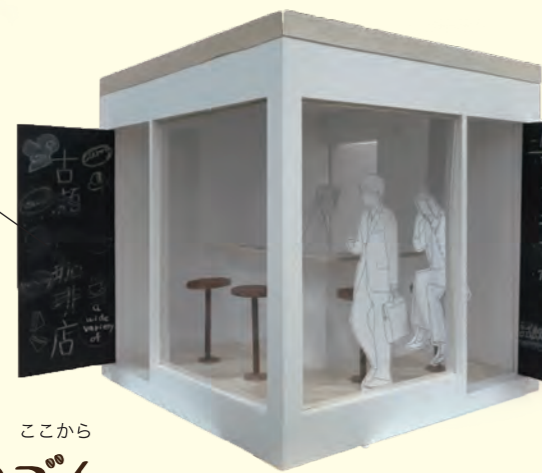
- ここから×喫茶店
- カフェテラス古瀬戸 さほうる2
  - 神田ブラジル ミロンガ
  - ラドリオ 文房堂カフェ
  - ペーパーブックカフェ TAM TAM
  - 豆香房 楽器カフェ
  - サロンド富山房 FORDO
- 今回調査させていただいた店舗です。ありがとうございます。今まで行きづらかった喫茶店をテーマに選ぶことで足を運ぶきっかけになり私たち自身神保町の事を深く知る事ができた。講評で頂いた意見を参考にし新しくオープンする喫茶店や参加希望店を増やしてネットワークを拡大していくことも考えて、より現実的にしていきたい。実現することを願っています。



チラシデザイン

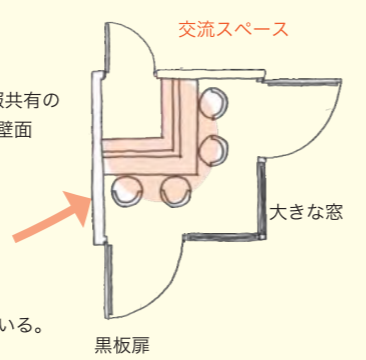


コースター



黒板扉と大きな窓で中の様子がよくわかる 多くの人を引き込む

平面プラン



地図とロゴが大きく描かれている。

情報共有の壁面

内観イメージ



屋台 古本乃粋

方丈庵 シネマネスト

2018 ARCHITECTURE & DESIGN

メンバー

- 木許優香 八木沼咲紀
- 芦沢暉 榎本唯花
- 菊地優月 清水菜々子
- 藤沢美冨 宮本純名

屋台

学生が古本屋へ訪れるきっかけを作る  
 神保町は古本の街であるにもかかわらず、古本屋に立ち寄る学生はごくわずか。そこで若者達が古本に興味を持つきっかけを与えるため、この屋台では本の一節をデザインしたドリンクを販売します。さらに屋台にはその本を展示してお客さんに読んでもらうことで、古本屋へ立ち寄るきっかけとなる屋台を目指しています。



屋台『古本乃粋』

この屋台には古本屋と大学生を繋ぐという目的があります。学生の興味を引くため本型の屋台になっています。見て、買って、読んで、行くという体感型の屋台をコンセプトとし、本に入り込んで巡るような設計になっています。

ます。この屋台は写真左のように複数のページが貼られ、下にはキャスターが取り付けられています。そのため本のように閉じて移動が可能な作りです。神保町周辺の大学を巡り学生達に販売する予定です。  
 購入以外に写真右のように真右のように屋台には様々な方法で本が展示されています。ある本の一節を吊る



したり、表紙が白くタイトルが隠された本などがあり、ドリンクを飲みながら気軽に手に取れるようになっていきます。そこで気になった本を古本屋へ探しに行くことを繰り返して、古本屋へ気軽に立ち寄れる人が増えて欲しいと考えています。

インスタ映える文学ドリンク

屋台のメインとなるドリンクは近代文学の文章の一節をモチーフとしており、そこから情景を思い浮かべてもらえるものとなっています。この商品は神保町に数多くある喫茶店に商品開発をしてもらい古本と同時に神保町の喫茶店の良さも知ってもらえるようになっています。メニューは8種の中から日替わりで3種のメニューを味わえる仕組みになっています。見た目の美しいドリンクにモチーフとなった本の一節が書かれたカップはインスタ映え間違えなしです。



貰えるおしゃれなノベルティ

屋台では商品を購入してくれた人へノベルティのプレゼントがあります。写真奥にある小冊子には古本屋の情報やマップが載っています。数多くある古本屋の中からぜひ好みの古本屋を見つけての助けをします。写真手前のカードは自分の購入したドリンクを手がけた喫茶店を紹介するショップカードとなっています。お気に入りの本をお気に入りの喫茶店で読むという神保町らしい過ごし方ができるようになるかもしれません。



方丈庵

神保町を映画の街として再興する

古本の街、カレーの街、コーヒーの街として知られる神保町。そんな神保町はかつて10館もの映画館のある街でした。しかし数ある映画館は次々に閉館し、現在残っているのはたったの2館になってしまいました。映画館発祥の地、映画の街と言われていたことを知る人も少ないでしょう。かつて映画館を楽しんだ人や映画をよく知らない子どもなどを呼び込んでもう一度映画の街としての神保町を知ってもらったためのイベントです。



方丈庵『シネマネスト』

私たちの方丈庵では主に映画作りのワークショップを行います。大学のサークルや若手の映画制作グループなどを対象にテーマに合った神保町の良さを伝える映画を制作してもらいます。神保町の町歩きに始まり、脚本や演技、さらには宣伝活動など様々なワークショップが開催されます。シネマネストとは「映画の巣」という意味です。映画作りの卵たちが神保町という巣で育って行くという意味で方丈庵も鳥の巣をモチーフとしたマノになっています。開放感のあるデザインで街の人たちが気軽に立ち寄れるようになっていきます。

映画作りの過程が見える

ワークショップの予定や活動はシネマネストのサイトから確認することができます。サイトにすることで遠い所に住む人も予定を合わせて訪れてもらうことができます。方丈庵の中には活動記録としてワークショップの写真が飾られていき、映画作りが進んでいくとどんどん賑やかな方丈庵になっていきます。ここに訪れると映画作りに参加していない人もここで映画が作られる過程を知ることができます。



メインイベント野外上映

完成した映画は神保町の街で野外上映が行われます。神保町の人、映画が好きな人、映画を作った人、たまたま訪れた人たちが一緒に映画を楽しめるイベントです。映画作りに参加してくれた人には神保町を盛り上げる手伝いをしてきた感謝の気持ちを込めてテーマに沿ったノベルティのプレゼントをします。

左はカレーがテーマの際のもの。





### 屋台

## 共立祭展示

# 2018 ARCHITECTURE & DESIGN

共立祭企画は建築・デザイン総合演習の第一課題を展示するという形で毎年行っているものであり、この演習のウォーミングアップ的な役割を担っている。

後期授業開始から共立祭までの約一ヶ月間で神保町の歴史や資源、現状をリサーチしてこのエリアをより魅力的な場所にするためのアイデアを形にしなければいけないという、アウトプットのスピードを試される課題でもある。今回の課題は神保町の古書店がつくり出す景観の代表的なものでもあるブックシエルフやワゴンを発展させた「屋台」の計画を中心としながら、それを取り巻くロゴマークやサイン、ポスター、スタッフ制服、食器なども含めて提案せよ、というものである。

A/Eの計5グループから提案された作品は10月20〜21日の二日間、2号館5階のラーニング commons を会場として展示され、本・コーヒー・カレーといった「神保町名物」のいずれかを各グループのキーアイテムとしつつ、ひ

との賑わいをどのように創出していかかというアイデアがそれぞれの腕の見せ所だったようにも感じた。



### Aグループ コーヒーで巡る神保町スタンプラリー

共立生がモバイル屋台を制作・保有し、神保町の喫茶店の「コーヒーの出がらし」と引き換えに屋台を貸し出すというシステムの提案。屋台ではワゴンのコーヒーを売り、それぞれの屋台に設置されたスタンプを集めてスタンプラリーを完成させると、「出がらし」を用いたコーヒー染めのノベルティがもらえるというものである。



### Bグループ 古本屋は突然に

パタパタと折りたためる、本もしくは神保町の裏路地にあるブックシエルフをモチーフにした屋台にはカフェ&バーカウンターやベンチ、黒板が備え付けられ、路地空間に突如現れ、人々が立ち寄る場所にしようという提案。



### Cグループ 吾輩は本である

不要になった本を回収し、販売可能な古本は古書店に提供し、販売が難しい古本は学生たちが雑貨にリメイクし、それを屋台で販売するという提案。リサイクルのシステムをつくり、学生がその活動に参加することで、「神保町」とのつながりを生み出そうというものである。



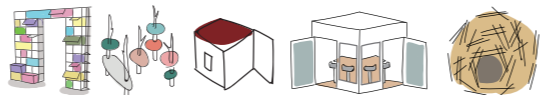
### Dグループ OKhouse

神保町にはサラリーマンや「O」がゆっくゆくくくする場所がないという学生の視点から、屋台を彼らの休憩（O）場所として展開し、一口で手軽に食べることが可能な、神保町のカレー屋とコラボしたカレー味のメニューを提供するというものである。



### Eグループ 古本乃粋

蛇腹のように開く屋台の中に文豪の一節が散りばめられていたり、近代文学の名作の文章からイメージしたインスタ映える綺麗なドリンクを販売したり、文学に関連したアイテムをフォトジェニックに展示することで、大学生と本の距離を近づけようとする試み。



### 方丈庵

## 最終発表

# 2018 ARCHITECTURE & DESIGN

2018年1月31日14時より2号館プレゼンテーションエリアにて、建築&デザイン総合演習最終講評会が開催され、今回も地元のお店や企業・千代田区商工観光課・信用金庫・町会・神田学会などからオブザーバーとして多くの方々が出席された。

発表に先立ち堀先生より、本演習の趣旨が神保町の魅力を探り、神保町の街を元気にするためのプロジェクトであることや、人が生活をする上で必要最低限の空間である「方丈庵」のような、狭小スペースを生かした提案であること、建築コースとデザインコースが共同する演習であることなどの概要説明があった。



### Aグループ 気持ちで見つける 縁保町（エンボウチョウ）

街の現状調査・街の課題を良く捉えており、神保町を訪れたいくなる街にするため、人と街を繋ぐきっかけとして現実的な案である事や、引出しの設置というアイデアが評価された。一方で、観光案内センターに設置されたパンフレット棚のようにならないような工夫や、街と駅と人など相互に良い効果が得られる様な仕組みが必要ではないかといった意見があった。



### Bグループ 思い出の森



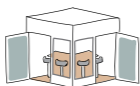
オリジナル帯・しおりのデザイン、方丈庵の形の楽しさについて好評であった。古本に付ける、思い出（読んだ人の感想コメント）の共有媒体としてのオリジナル帯・しおりの使い方やシステムについての質問や、本の提供者と次に本を持ち帰る人のコミュニケーションとしては面白いが、神保町の書店・古書店などへの関わりや繋がりが希薄ではないかという問題を指摘された。また、しおりに書店の情報を掲載してはどうかという意見があった。

### Cグループ 吾輩は絵本である



ロゴマークの楽しさや、絵本作家とのコラボレーションワークショップ、オリジナル絵本の制作という提案の面白さが好評であった。その中でオリジナル作品を一部変更することの権利上の問題や難しさが指摘され、制作したオリジナル絵本の販売や、店舗での展示について質問があった。また、店舗の設置について常設か仮設かどちらを想定しているかといった質問もあった。

### Dグループ 方丈庵神保町 珈琲物語 「フンから」



神保町を訪れる様々な趣味の人たちが混り合う古書店街・楽器店街・スポーツ用品店の交差点を選び、神保町の喫茶店案内所とした点が高く評価された。上の句・下の句のコーナーを媒体とした喫茶店巡りや様々な喫茶店が週替わりで出店する点が面白いが、喫茶店以外にも神保町の魅力は多数あり、カレー店や、違う飲食店などの宣伝や出店の可能性についても検討してはどうかという意見があった。

### Eグループ シネマレスト



神保町がかつて映画館のたくさんある街であったことに注目し、その歴史のアーカイブと、新たな神保町の街の魅力を映画を使って発信していくという提案が好評であった。脚本ワークショップを通じて出来上がった内容で神保町の魅力が偏らずにうまく伝わるか、野外出映の機材は誰が用意（提供）するのか、鳥の巣のような方丈庵と野外出映の場所との関係など質問があった。

最後に林田先生より、5つの班それぞれの提案内容の興味深さと共に、初めて発表を目にする人にも解り易い、「コミュニケーションとしてのプレゼンテーションを大事にしてほしい」という総評があり、最終講評会は幕を閉じた。







平成30年度 共立女子大学家政学部 建築・デザイン学科  
 建築&デザイン総合演習  
 「神保町地域活性化 Project 報告書」

A グループ

小池 有佳 内田 梨華子 金子 沙椰 佐治 ひとみ  
 鶴田 真央 古橋 朋弥 稲田 夕香 鈴木 小百合 本田 佳南子

B グループ

石塚 星菜 岡 しずり 黒川 芽里 澤内 紗也乃  
 長島 未来 丸尾 優果 宮本 佑香 岡村 佳奈 高梨 香恵

C グループ

天野 有紗 梅谷 花菜 川村 明日香 佐藤 千華  
 土屋 宥乃 伏間江 紗希 守屋 清乃 勝島 智代 平井 花呼

D グループ

飯田 真悠 岡村 瞳 佐々木 美輝 堂脇 由香梨  
 松坂 美沙 吉原 侑唯 寺田 朱祐美 柴田 こよみ 藤田 美玖

E グループ

芦沢 瞳 榎本 唯花 菊地 優月 清水 菜々子  
 藤澤 美冴 宮本 純名 木許 優香 八木沼 咲紀

教員

堀 啓二 高橋 大輔 福田 一郎

助手

藤田 悦世 花井 麻友